四天王寺悲田院こども園

創立からの理念「人は関わり合いの中で育つ」を基に様々な関わりの中でこどもたちの主体性を育めるよう、教育・保育を一体的に提供します。

また、乳幼児期の子ども一人ひとりの健やかな育ちを保証し、地域の子育て家庭を支え「こどもまんなか社会」の実現に努めます。

1. 支援スキルの向上
具体的な取組み手段・計画および期待する成果
・保育理念について、職員間で共通認識を深め、こども一人ひとりを理解した発達の土台作りと創意工夫を図った保育を実践します。 ・悲田院の環境を生かし、様々な年齢層との交流を行い、豊かな人間性を育みます。 ・チャレンジ精神を育む保育を行い、達成感や自己肯定感を育てます。

2. 人財の確保と育成
具体的な取組み手段・計画および期待する成果
・新人・若手職員を対象とした業務達成チェックリストを作成し、具体的な目標設定と育成を行う。 ・職員一人一人の学びたい、いつまでも学び続けられる環境の整備を行い、モチベーションの向上とスキルアップに努めます。

3. プライマリーバランスの追求
具体的な取組み手段・計画および期待する成果
・就学前児童は年々減少傾向にあるが、核家族化の進行・共働き家庭の増加によりニーズが多様化しています。公立園の建替え、こども園化が進む中で悲田院ならではの良さをアピールし、園児獲得に努めます。 ・学童保育については、低学年受け入れに力を注ぎ、安定した運営に努めます。

4. 行政との連携と事業開発
具体的な取組み手段・計画および期待する成果
・本格的にスタートする「だれでも通園制度」について、一般型一時預かり保育事業への影響を見ながら、羽曳野市と連携を図り「だれでも通園制度」の導入検討を行います。 ・行政・各種関係機関と連携を図り、医療的ケア児の受け入れを行い、安心して通園できる環境を整えます。

5.資金の集中と適正配分
具体的な取組み手段・計画および期待する成果
・こども園の償還金の返済を確実に行います。 また、研徳田学習室・ホールの改修工事については、悲田院全体で検討を重ね 実施に向けて計画を立てます。

6.職員のワークライフバランスの向上
具体的な取組み手段・計画および期待する成果
・時間の有効活用を定着させ、ノンコンタクトタイムの確保に努めます。 ・保育業務の目的について職員間で共通理解し、チームワークの向上に努め、 業務量の適正化・分担化を図ります。 ・年間休日数123日実施に向け、安定した職員の確保、定着化に努めます。

7.中長期計画の策定
具体的な取組み手段・計画および期待する成果
・学習室の整備を行い、乳児期から学童期まで一貫した教育・保育が受けれるよう 職員のスキルアップと、保育環境の整備に努めます。